

**SIIG 社 USB カード (DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe)、
Tech Source 社 グラフィックカード(GFX 550e)、
Rextron 社 KVM コンソールドロワ(Model HKS10)と
SPARC Enterprise M3000 の
接続検証結果報告書**

株式会社 昌新
技術部

1. 作業実施概要

SIIG 社の USB インタフェースカード DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe、Tech Source 社のグラフィックカード GFX 550e、Rextron 社 KVM コンソールドロワ Model HKS10 と、SPARC Enterprise M3000 との 接続・動作確認を実施致しました。

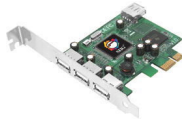
2. 被検証装置

品 名	型名	記 事
富士通 UNIX サーバ	SPARC Enterprise M3000	CPU: SPARC64 VII Oracle Solaris 10 9/10
富士通 UNIX サーバ	SPARC Enterprise M3000	CPU: SPARC64 VII+ Oracle Solaris 10 9/10
USB インタフェースカード DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe	JU-P40112-S1IS	RoHS 対応
グラフィックカード Raptor GFX 550e	19-0156-02IS	RoHS 対応
KVM コンソールドロワ Model HKS10	REX/HKS10-IUM16D	RoHS 対応 解像度 SXGA 1280x1024 表示色 26 万色

SPARC Enterprise M3000



Raptor GFX 550e



DP Hi-Speed USB
4-Port PCIe



Model HKS10

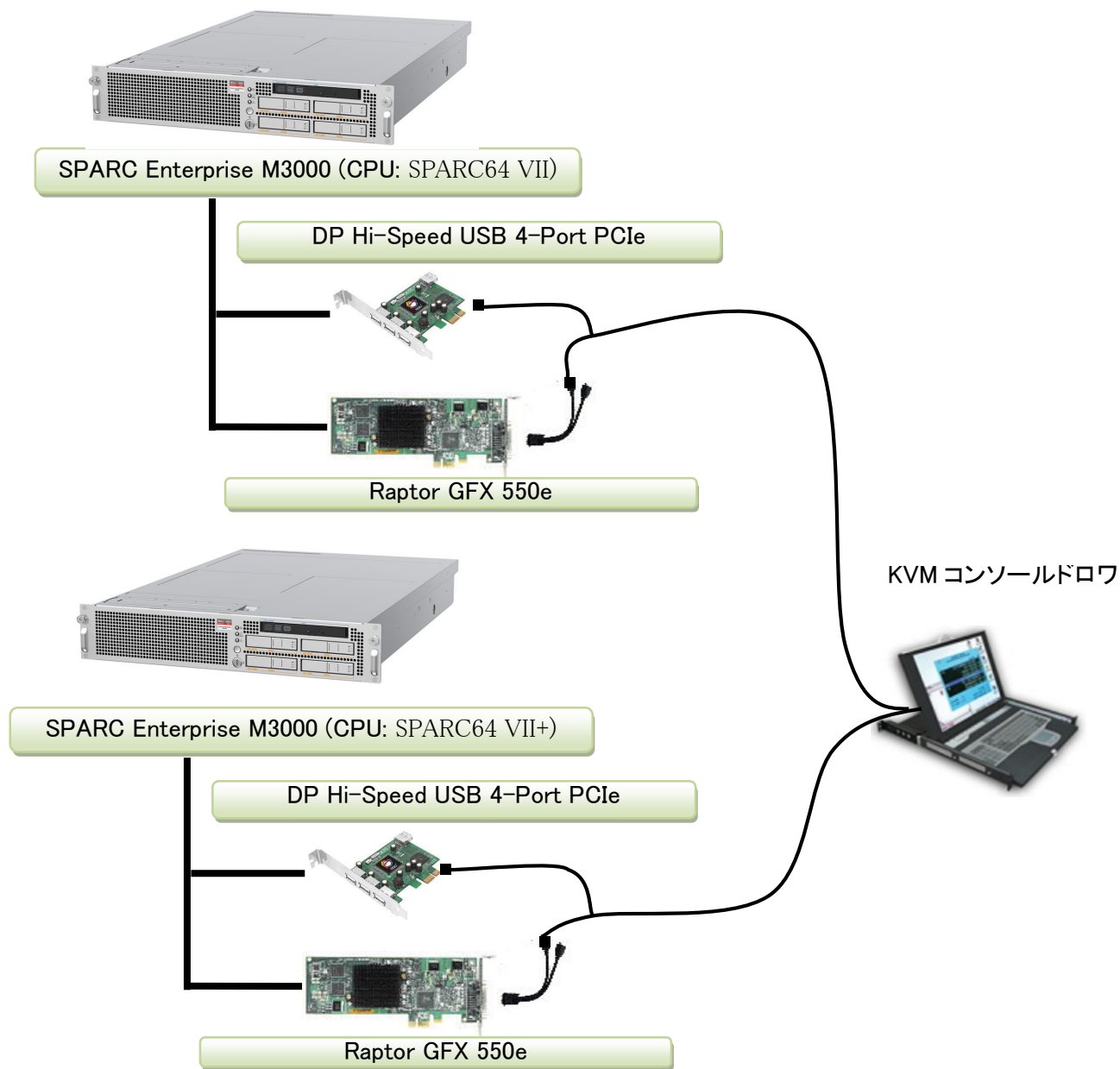
3. 作業期間

2011年7月6日～7日

4. 作業場所

富士通検証センター(東京・浜松町)29F Validation Room6

5. 実施システム構成(概要)



- (1) USB Interface Card (DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe)
- (2) High Resolution PCI Express Graphics Board (GFX 550e)
- (3) KVM コンソールドロワ Primary Display , K/B, Mouse (REX/HKS10-IUM16D)
- (4) SPARC Enterprise M3000 (CPU: SPARC64 VII, Oracle Solaris 10 9/10)
- (5) SPARC Enterprise M3000 (CPU: SPARC64 VII+, Oracle Solaris 10 9/10)

6. 検証項目

- (1) SPARC Enterprise M3000 を起動し、OS 起動完了後、
 - ①USB インタフェースカードに接続した USB キーボード/マウス が認識できる事。
 - ②グラフィックカード GFX550e が認識できる事。
- (2) Sun Java Desktop を起動し、画面が KVM コンソールドロワの LCD 画面で、Sun Java Desktop ログイン画面が確認出来、キーボード・マウスから操作できる事。
- (3) 起動した Sun Java Desktop において、キーボード配列が日本語キー配列仕様で、正しく入力操作ができる事。
- (4) KVM スイッチで切替を行い、画面、キーボード、マウス操作が行える事。

7. 接続手順

7-1. SPARC Enterprise M3000 との接続

- a. SPARC Enterprise M3000 の電源を OFF します。
- b. USB インタフェースカード を M3000 の PCI Express スロットに挿入します。
- c. グラフィックカード GFX 550e を M3000 の PCI Express スロットに挿入します。
- d. GFX 550e のビデオ出力コネクタへ、付属の Y 字ケーブルを接続します。
Y字ケーブルに REX/HKS10-IUM16D 専用ケーブルのコンピュータ側ビデオ入力コネクタをアナログアダプタ経由で接続します。
- e. USB インタフェースカード の USB コネクタへ、REX/HKS10-IUM16D 専用ケーブルの USB キーボード/マウス の USB コネクタを接続します。
- f. REX/HKS10-IUM16D 専用ケーブルの HKS 側を REX/HKS10-IUM16D 入力側 ポート1 へ接続します。
- g. 別の M3000 についても同様に接続します。ただし、REX/HKS10-IUM16D 入力側 ポート 7(fで接続した以外のポートに)へ接続します。
- h. M3000 の電源を ON し、OK プロンプトから、“boot -r” で、起動します。
- i. root でログイン後に、グラフィックカード GFX 550e のドライバーソフトウェアをインストールします。

8. 検証結果

- (1) USB インタフェースカード DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe の認識、及び、グラフィックカード GFX 550e の認識は、SPARC Enterprise M3000 起動後、prtconf から確認致しました。
- (2) Sun Java Desktop を起動し、GFX550e, DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe 経由のコンソールドロワ REX/HKS10-IUM16D の LCD モニターと、キーボード・マウス とで、Sun Java Desktop システム を操作出来る事を確認致しました。
- (3) 起動した Sun Java Desktop のキー入力に措いて、コンソールドロワ REX/HKS10-IUM16D のキーボードキー配列を、日本語キー配列仕様に設定して起動した場合、キー配列仕様に一致した文字入力出来る事を確認致しました。

コンソールドロワのキーボードキー配列仕様に変更するには、“kbd -s”コマンドで調べたシステムに登録されているキーボード名を /etc/default/kbd ファイル内の layout 行の “layout=”以降に定義することで変更します。検証用に再定義したキーボード名は、“Japanese”です。

- (4) KVM スイッチで ポート 1, ポート 7 の切替を行い、画面が切り替わり、キーボード、マウス操作が行える事を確認いたしました。

【制限事項】

- ① サーバ起動時のシステムコンソールは、XSCF 経由でのシステムコンソールとなります。システムコンソールの入出力に、グラフィックカード GFX550e 出力と、キーボード入力を設定する事は出来ません。
- ② M3000 のみの適用となります。
M4000、M5000、M8000、M9000 につきましては検証しておらず、対象外となります。
- ③ HKS10-IUM16D のキーボード配列 (英語キー配列 or 日本語キー配列) は、ご注文される際に、ご指定ください。

※ **ご注意**

動作確認が取れている組み合わせは、

弊社 USB カード(DP Hi-Speed USB 4-Port PCIe [P/N:JU-P40112-S1IS])、

弊社グラフィックカード(Raptor GFX 550e [P/N: 19-0156-02IS])、

弊社 KVM コンソールドロア(Model HKS10 [P/N:REX/HKS10-IUM16D])

となります。これ以外の組み合わせにつきましては動作保障致しかねますが、まずは下記連絡先にお問い合わせ下さい。

お問合せ先

株式会社昌新

情報システム営業部 (担当: 浅利)

TEL: 03-3270-5926

E-mail: IS@shoshin.co.jp

URL: <http://www.shoshin.co.jp/c/tsi/index.html>

URL: <http://www.shoshin.co.jp/c/rtron/idm.html>

以上